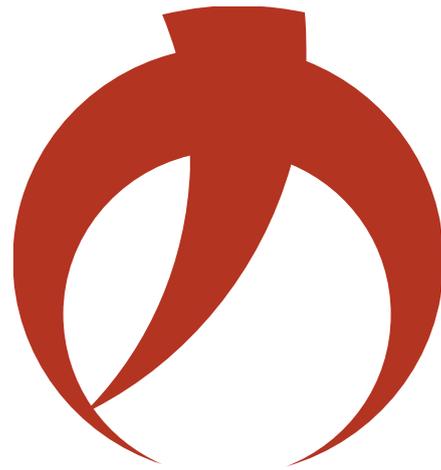
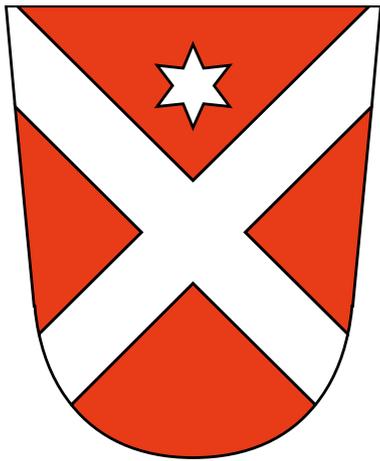


---

平成26年度  
国際交流視察団報告書

---



平成27年3月 奈井江町

## 目 次

視察団派遣日程 .....	1
視察団報告書【ハウスヤルピ町を訪問して】 .....	2～39
①役場 おもいやり課長 馬場和浩.....	2
②奈井江商業高校 3年生 奥田準生.....	10
③奈井江商業高校 3年生 中田伶音.....	15
④奈井江中学校 3年生 山田夕貴.....	20
⑤奈井江中学校 2年生 鶴有路.....	27
⑥奈井江中学校 2年生 大崎天海.....	32
フィンランド地方自治研修報告書	
⑦役場 まちづくり課 総務係長 遠藤友幸.....	40



【左から】

馬場 和浩、中田 伶音、奥田 準生、鶴 有路、山田 夕貴、大崎 天海、遠藤 友幸

## ハウスヤルビ町視察団 派遣日程

平成26年8月21日（木）～8月29日（金）：9日間

月日(曜日)	内 容	容
8/21(木)	13:00 出発挨拶(役場) 15:45 新千歳空港発 17:50 関西空港着 関西エアポートワシントンホテル (宿泊)	
8/22(金)	8:35 関西エアポートワシントンホテル発 10:45 関西空港発 15:00 ヘルシンキ空港着 18:00 歓迎夕食会 (リヒマキ市、ホテル)	(奥田、中田、山田、鶴、大崎) ホストファミリーと交流
8/23(土)	(馬場、遠藤) 9:30 ヘルシンキ市内観光 (シベリウス公園、セウラサーリ野外博物館等)	ホストファミリーと交流
8/24(日)	(馬場、遠藤) 10:00 トゥースラ湖畔観光 (ハロセンニエミ博物館、アイノラ)	ホストファミリーと交流
8/25(月)	(馬場、遠藤) 13:00 コーヴォラ市での研修 (馬場、遠藤、奥田、山田、鶴、大崎) 17:30 ヴァルクヤルビ湖畔にてサウナパーティ (ハウスヤルビに引越した人たちの歓迎会に参加)	学校の授業に参加 ホストファミリーと交流
8/26(火)	(馬場、遠藤) 10:00 ハメーンリンナ市での研修 13:00 ハメ連合での研修	学校の授業に参加 ホストファミリーと交流
8/27(水)	(馬場、遠藤) 10:00 地方自治体協会での研修 13:00 財務省での研修 18:00 副理事長等との夕食会	学校の授業に参加 ホストファミリーと交流
8/28(木)	9:00 ヘルシンキ市内へ観光 ※全員 (ヘルシンキ大聖堂、テンペリアウキオ教会) 17:20 ヘルシンキ空港発	
8/29(金)	8:55 関西空港着 12:05 関西空港発 13:55 新千歳空港着 16:40 役場着	

## ハウスヤルビ町を訪れて

奈井江町役場おもいやり課 馬場和浩

皆様、ヒュヴァー・フオメンタ。(日本語訳では、「おはよう!」という意味になります。)、ヒュヴァー・パイヴァー。(日本語訳では、「こんにちは!」)、ヒュヴァー・イルター(日本語訳では、「今晚は!」)という、挨拶から始めさせていただきましたが、私から、フィンランド・ハウスヤルビ町視察団派遣に関する帰町報告をさせていただきます。

報告にあたり、フィンランド共和国の概要について、少しご紹介させていただきます。

フィンランド共和国は、北ヨーロッパに位置した北欧諸国の一つで、西はスウェーデン、北はノルウェー、東はロシアと隣接し、南はフィンランド湾を挟んでエストニアが位置しています。

国土の8割が森林と、大小様々な「美しい湖」に囲まれ、「サウナ」の発祥の地、或いは「サンタクロース」や漫画でおなじみの「ムーミン」、そしてラップランドと呼ばれる北部では「オーロラ」の見える国との観光的イメージは皆様が思い浮かべることでしょう。

これだけですと、「森と湖の自然豊かな国」を想像しがちですが、この他に、ハウスヤルビ町との友好都市協定した根底でもあります高福祉の国、教育水準が世界でもトップレベル、豊かな森林資源を活かした製紙、パルプ、木材産業や携帯電話のノキアなどの電子・電気機器製造ハイテク産業、変わったところでは、今年、日本人女性が優勝しましたが、エアギターの世界選手権も行われている国です。

また、地方自治体は、基本的には国と市町村の二層制ですが、市町村は、業務によっては、単独または他の市町村と市町村連合を組みサービスを提供しています。

面積は約33.8万km<sup>2</sup>と、日本(約37.8万km<sup>2</sup>)よりやや小さく、人口は約540万人(日本は約1億2千7百万人)、首都はヘルシンキで、人口は約60万人です。

日本からの距離は、約7,800キロメートルで、(因みに北海道から沖縄で約

2,300 キロメートル) 飛行機での移動時間は約 10 時間程かかる、本当に遠い国です。

通貨は、ユーロ (€) で関西国際空港両替レートで 1€ = 141.11 円でした。

フィンランド人の権利は、誰でも森に自由に森に入ることができ、果物やキノコは取り放題だそうです。

フィンランド人は、時間を大切にする、時間を守る習慣があるそうです。(ヘルシンキにある地方自治体協会のマルツェ・ツルネン副部長は、日本の社会ほどではないがと微笑みながら、そして、日本の和食が世界一と話してくれました。)

また、自然がとても大好き。しかし、冬は長くてつらいので、夏休みはヘルシンキ等の大都市に住んでいる人は、郊外湖畔の別荘や夏小屋でのんびり過ごすようです。



さて、本題に入りますが、平成 26 年 8 月 21 日から 8 月 29 日までの 9 日間の工程で、中学生 3 名、高校生 2 名と職員 2 名の計 7 名でフィンランド・ハウスヤルビ町訪問団派遣研修をさせていただきました。

遠く離れた初めて訪れる国でもあり、言葉の壁を越えてコミュニケーションが取れるのか、一抹の不安を抱きながらの出発でした。

いよいよ研修が始まるヘルシンキ空港に到着。パイヴィー・テラバ ハウスヤルビ町長と通訳のサカリ氏が出迎えてくれ、対面時には、ものすごく緊張し、

覚えた簡単なフィンランド語での挨拶「ヒュヴァーパイヴァー！ハウスカ・トウトウストウア！ニメニオン カズヒロババ！ ハウスカタヴァタ！（こんにちは、はじめまして、わたしの名前は、ばばかずひろです。お目にかかれて嬉しいです。）」を暗記し、挨拶したのですが、上手く伝わらず、初日から冷や汗をかいたスタートとなりました。

ハウスヤルビ町のバスで、宿泊ホテルのあるリヒマキ市に向う道中の景色はのどかで、岩盤、白樺と赤松の林、畑は大麦小麦畑が多いと説明を受けました。

リヒマキ市から車で 20 分くらいの所にハウスヤルビ町があります。

ここで少し、友好都市、ハウスヤルビ町の紹介をさせていただきます。

ハウスヤルビ町は、南スオミ州カンタ ハメ県に位置し、リヒマキ郡に属しており、ヘルシンキの北約 65 Km（奈井江駅から札幌白石駅くらい）にあるまちです。

フィンランド語のほか、スウェーデン語が第 2 の母国語。人口は、約 9,000 人、ヒキア、リッティラ、オイッティ、モンニと 4 つの主な集落で形成され、自治体的な中心地はオイッティです。

ハウスヤルビ町役場は、教育・医療系を含み約 380 人の職員が働いています。

始業午前 9 時から終業午後 3 時まで。（職員の勤務時間午前 8 時から終業午後 4 時まで。）

畑作物は、大麦、小麦、ライ麦、いもが主作物。

因みに、輸入している日本の米は、500g で 4 ユーロ（両替レートで約 570 円）。

ハウスヤルビ町では、ヘルスケアサービスを、近隣の町ロッピとリヒマキと共同で 45,000 人へ独自のサービスを実施しています。

話を戻し、職員 2 名が宿泊滞在するリヒマキのホテルに到着し、歓迎夕食会が開催され、カリ・マサリン議長、パイヴィー・テラヴァ町長、マルク・トルッティラ教育長、ペッカ・ロキンペラ第一副理事長、今年 10 月に奈井江町に来訪されましたヘイニ・リスタバーラ理事と中学 2 年生、大崎 天海さんのホストファミリーでもあるヤリ・マキネン理事や学校長、サカリ通訳が出迎えてくれました。

交流に際して、生徒たちは、・・・

- ・ 奈井江商業高校3年 中田伶音くん「ホームステイ先との交流」
- ・ 奈井江商業高校3年 奥田準生くん「学校生活、日本との教育の違い」
- ・ 奈井江中学校3年 山田夕貴さん「フィンランドの食文化」
- ・ 奈井江中学校2年 鶴 有路くん「ヘルシンキとハウスヤルビの街並み」
- ・ 奈井江中学校2年 大崎天海さん「日本文化の流行」

をそれぞれ学習のテーマに置き、歓迎会を終えると、ホストファミリーと共に1週間のホームステイに入りました。

暖かく迎え入れてくれたホームステイ先で、フィンランド語や英語を駆使した、ホストファミリーとの生活や学校の授業に参加するなどの体験を通じて、交流を深め、国際感覚やコミュニケーション能力の向上とあわせ、初期の学習目的を達成したと思われる笑顔と元気な姿を最終日の朝、ホテルで合流した際に見ることができ、安心いたしました。

まずもって、引率者としての私の立場からは、事故もなく無事に9日間の訪問研修工程を終えることが出来たのが何よりとの思いになりました。



また、我々職員2名も、国の機関であります財務省、広域行政を行っていませんハメ連合、合併による大都市ハメーンリンナ市、コウヴォラ市、そして、合併を行わなかったハウスヤルビ町の自治研修を行ってきました。

研修テーマは、①「奈井江町のまちづくりの参考とするために、合併した町と合併してない町の実情について」、②「世界的にも北欧型福祉国家で名だたるフィンランドにおける保健・医療・福祉施策並びに子育て・教育について」と、大きく2つの視点を持ち、研修に臨みました。

私からは、②を主に報告させていただきます。

フィンランドでは、町の責務として、①「社会福祉・保健サービス」、②「教育」、③「産業や生活の基盤となる施設の整備と維持管理」の3つが重要な役割を占めます。

私が研修テーマとした、①「社会福祉・保健サービス」では、ハウスヤルビ町の子育て支援は、次のように、町が実施することから国の関与は薄いということです。

町の看護師による、生まれる前の出産等の相談や生まれた赤ちゃんから小学校入学（7歳）まで継続して相談を受けるシステムが確立されています。

そして、元気な子は、年に1回健診を受け、発達に問題のある子については、専門的支援を受けることができる機関に繋ぐ役割も担っています。

また、子どもの親が働いている場合は、ディケア（保育所）に預けることができ、どの町も均一に法律で料金が定められています。

ディケアの利用者負担は、両親の収入に応じて支払うことになり、低収入の方は、「無料」ですが、一般的には、1人1カ月で、283ユーロ（両替レートで約4万円）の負担をいただきます。

ディケアの開設時間は、必要であれば24時間体制（現在1ヶ所実施）をとるそうですが、一般的には、午前7時～午後5時又は6時の開所であり、1歳未満児の利用が多いようです。

安心して出産できるよう、母親に優しいまちづくりとして、出産祝いセットをプレゼントとして配ります。

このほかに扶助費として、100ユーロ（両替レートで約1万4千円）が支給され、仕事を9カ月間休めるシステムもあり、その間の給料は全額支給されます。（雇う会社で3カ月分を、残り6カ月は国が負担）

さらに、9カ月～3歳まで、国が少額ではあるが子育てにかかる費用等をフォローする仕組みもあります。

基本、子どもが3歳になるまで休むことができる職場環境や女性の働きやすい環境を整えるのが、フィンランドシステムの育児休暇制度です。

いじめ（虐待）等問題で町の施設で子どもを預かる。（かかる経費は町負担）

電車内も自転車やベビーカー専用のスペースもあり、ベビーカーを押す親や年齢により子どもの運賃も無料のようです。

マルク・トルッティラ教育長の住宅に訪問した際に庭の片隅に、レイキモッキと云われる小さな家がありましたが、これは、子どもの専用の家で我が子の自立を促すためのものであり、子ども時代の楽しい思い出を作るものと紹介していただきました。



大まかに一端を紹介させていただきましたが、無いものは創る精神でこのほかにも多種多様な子育て支援策が講じられることにより、「世界一お母さんにやさしい国」と云われているのかと実感しました。

※参考までに、ハウスヤルビ町では、子のいる親から喜ばれていること

No. 1は、ディケア、No. 2は、小中学校（教育）の評判が良いとのことであり、故に「町」の責任は非常に大きいそうです。

続いて合併した市で聞いた、フィンランドの教育についてですが、コウヴオラ市では、従来、田舎とまちの学力差があったが、学カアップのための教育、英語やドイツ語等言葉の勉強、音楽の勉強を小さな町で出来なかった教育を市街地でできるようになったことを、合併のメリットとして紹介してくれました。

ただ、問題点もあるそうで、工場の多い所が倒産になって新たな問題が発生し、失業家族の子どもへのケアが大切な問題となっています。

市では、将来の若者、子どものために市長は働く。合併により新しくした市の意義を強調したいとラウリ・ラミンマキ市長は話してくれました。

次に、ハメーンリンナ市の子どもの教育では、テクノロジー社会への対応のため、幼稚園、小学校でのOA機器を駆使した教育（パソコン、電子黒板）が実施されています。

服装は自由、生徒と先生がフレンドリーな、枠にとらわれない関係にあり、自由に質問したり、困りごとは皆で話し合える緊張感のないようなスタイルをとっています。

人材を大切にし、自主性を尊重する教育により、自分で学び取る自己責任が大変重要なことと捉えています。

2010年から「森の教育」を国の方針どおり実施したそうです。

6歳の子ども（10人～20人程度）が、1日森の中で生活体験をし、互いに協力しながら生きていく大切さ、自然の大切さを学ぶものです。

当初1グループだったのが、10グループに増えたこと、父親が教育に興味を持つようになったのが成果だと説明を受けました。

合併して変わったことは、教育は政府からレベルアップするよう指導があり、大学卒業の先生を配置したり、まちとまちの経済差はあるが、建物やコンピュータ設備などのまちもレベルを同じくする。

全フィンランドの3.5%、ヘルシンキ8%が、フィンランド語、スウェーデン語以外の他国語を使います。

合併後5年が経つ。自国語で話す権利により、6つの母国語を話す勉強もしています。※スウェーデン語の幼稚園にも近年、他国の転入者が増えている状況。（ロシア、エストニアからが多いようです。）



## 【まとめ】

社会保障への税負担は大きい反面、国民が受ける平等性に基づく、きめ細やかな保健・医療・福祉サービスを自治体が供給していることから、市民のサービス満足度はかなり高く、心豊かに暮らすことができます。

教育面でも小学校から大学まで教育費が無料、小学校から高校まで給食も無料、そして、テクノロジー社会への対応として、小さい頃から現代社会に必要な PC コンピュータ黒板ではなく、タッチパネルを使った教育と、教育を受ける環境面において充実されているように感じました。

また、研修の先々で、公務員として働く正に基本、当たり前のことではありますが、実施するサービスは市民のため「市民の声・ニーズを聴き良いものに」との話が都度あり、私の記憶に残るフレーズでした。

一番いい自治体というのは、住民の声を聴き、サービスを提供できることが大切であることを念頭に、今後の職務遂行にあたってまいりたいと考えるところです。

## 【終わりに】

この度、私たちのフィンランドでの研修プランを計画していただき、温かく迎え入れていただきましたこと、研修中の適切なサポートとご配慮をいただきましたパイヴィー・テラヴァ町長、マルク・トルッティラ教育長、アレクシ・ヘイッキラ総務課長、ホストファミリーの皆様を始め、関係者の方々に心から厚く感謝申し上げます。

そして、言葉の壁はありましたが、実際に見て、肌で感じて多くの刺激を受けることのできた貴重な研修の機会を与えていただきましたことに感謝いたします。

## ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江商業高校 3年生 奥田 準生

### 【1日目】

昼に奈井江を出発して千歳空港に向かいました。飛行機に乗り、夕方くらいに関西空港へ着きました。空港の近くの「ワシントンホテル」に泊まりました。夜ご飯はバイキングに行きました。とても美味しかったです。

食べ終わってホテルに戻りました。戻る途中に大阪といえば、「NMB48」なのでNMBのメンバーがいないか探したんですが残念ながらいませんでした。そして、部屋に戻り寝ました。

### 【2日目】

朝ご飯はホテルのバイキングでした。大阪でたこ焼きが食べたかったけど、無かったのでホテルのバイキングにあったたこ焼きを食べました。

朝ご飯を食べ終え、空港に行きました。関西空港からフィンランドのヘルシンキまで飛行機で9時間30分。飛行機の中では特にすることがなく、「寝るか」「映画を観るか」「音楽を聴くか」の3パターンしかなく、とても苦痛でした。なんとかその苦痛の時間が終わり、乗り物酔いしたままフィンランドのヘルシンキ空港に着きました。

外に出るとフィンランドは寒かった。バスに乗り一時間くらいで違う町のホテルに着きました。そこで、荷物を置き制服に着替え、食事会の準備をしました。

食事会にはホストファミリーも来ており、みんなで食事しました。それぞれ泊まるホストファミリーの席に着き、ご飯を食べました。出てきたメニューは最初にサラダが出てきました。次に、羊の肉か鮭どちらか選べて、僕は羊の肉にしました。それから、デザートが出てきました。

お食事会が終わり、ホストファミリーと家に向かいました。ホストファミリーは、母と姉のアーダ19歳と妹のアッシー14歳の3人家族でした。姉のアーダは今年の2月まで日本で1年間留学していたので、日本語を話すことができ、言葉には困らなくて良かったです。

家には馬や犬などがいました。自分の部屋に案内され、そこに荷物を置き、家で栽培している木の実などを食べました。家に戻ったら夜の9時でした。フィンランドは夜の10時くらいにならないと暗くならないと教えてくれました。それから、シャワーに入りました。家には浴槽もあり、日本とあまり変わらなかったです。そして、フィンランド語のテレビを観て寝ました。

### 【3日目】

朝ご飯はパンでしたが、日本のパンと比べると堅めで、パンの上にチーズやハムやトマトなどを乗せて食べました。

その後、家族で湖に行きました。最初に展望台のような塔に登って、そこから湖を見ました。とても大きくすばらしかったです。



それから、街に行ってお兄ちゃんと合流しました。お兄ちゃんはなかなかファンキーでした。そして、一緒にお昼ご飯を食べにデパートへ行き、そこでハンバーガーを食べました。ポテトを食べるとき、フィンランドの人はケチャップに胡椒を

入れ、それをつけて食べていました。それから、お城を見に行きました、とても大きなお城でした。そして、湖でお兄ちゃんと遊びました。

家に帰る途中にスーパーに寄りアイスを買って貰いました。家に帰ってから馬に乗って遊びました。しばらく馬で遊びそれから夜ご飯。ポテトサラダみたいなものと馬のサラミみたいなものをオーブンで焼いたものでした。結構おいしかったです。

#### 【4日目】

朝からアーダと電車に乗って、ショッピングモールに行きました。フィンランドの電車は、日本と違い自分でボタンを押して電車のドアを開けるタイプでした。電車を降りて少し歩いたらショッピングモールに着きました。結構大きな所で最初にお昼ご飯としてピザを食べました。食べ終わって服を見に行きました。サイズが日本と違い、あまり日本人に合うサイズがありませんでしたが、たまたまサイズが合ったパーカーを買いました。そして、一階にあったスーパーでお菓子を買って、家に帰りました。アーダがスーパーで買っていた変な黒いおやつをくれてそれを食べたとしても不味かったです。その後、ホストファミリーとパンを作ったりしました。

#### 【5日目】

朝6時に起きて学校に行く準備をしました。朝が早く辛かったです。朝ご飯はいちごのデザートみたいなものを食べた。それから、アーダに近くのバス停まで送ってもらいました。近くの家の中学生も一緒にバス停まで行きました。バス停で10分くらい待ったらバスが来ました。アッシーからバスに乗る定期みたいのを渡され、それを運転手に見せてから乗りました。バスにはいっぱい中学生が乗っていました。10分くらい乗ったら学校に着きました。中学と高校が一緒になっている学校だった。

一時間目はリンゴのパンを作った。作っている途中に校長室に呼ばれ、そこに保健室の先生も来た。保健室の先生は日本に住んでいて日本語が喋れる。通訳をしてもらい、校舎見学をした。

三時間目に理科の授業、四時間目に数学を受けたが何を喋っているのかわからないまま終わった。しかし、日本と学ぶ方法が違って、フィンランドではおやつを食べたりジュースを飲みながら授業を受けてもいいという学習方法だった。そして、お昼ご飯は食堂のバイキングでよくわからない料理だったが、美味しかった。

その後、美術の授業を受け、すべての授業が終わった。帰りもバスで帰った。家に帰ってからみんなでサウナに行った。車で15分くらいでサウナに着いた。そこには同い年の日本人もいた。話を聞いた後にサウナに入った。サウナの中はすごく暑かった。そして、湖に入るという方法だった。サウナの中は暑く外

は寒いので苦痛でした。でもいい経験でした。その後にフランクフルトを食べました。そして、家に帰りお風呂に入って寝ました。

### 【6日目】

朝はまた、いちごのデザートみたいなものを食べてから昨日と同じバスで学校に向かった。

一日目は学校であまり喋れなかったけど、二日目の学校はいろんな人と喋った。午前中は社会と数学を学んだ。いつもどおり何を喋っているかはわからなかった。午後から外で高校生と中学生みんなでダンスパーティーみたいのをした。NHKの体操のお姉さんみたいな人がステージの上で踊って、みんなはそれを見て踊るとい謎のパーティーが始まった。生徒のみんなは暴れていた。

ダンスが終わったら、次にフィンランド野球という野球が始まった。学校の生徒対学校の先生で試合をしていた。日本の野球と違い、バッターの横にピッチャーがいて、ピッチャーはボールを上高く上げそれを打つという方式だった。そして、打ったバッターは三塁側に走って行くという謎の野球でした。どっちが勝ったのかもわからないまま終わりました。



家に着いたらホストファミリーのお父さんが「戦車の博物館に行こう」と言い、お父さんとお母さんで博物館に行きました。

### 【7日目】

この日はアーダの大学に行きました。大学は中学や高校と違いとても静かで授業もみんなまじめに受けていました。そこで、フィンランドに留学していた日本人と一緒に英語の授業を受けました。

昼は食堂のバイキングで、まあまあ美味しかったです。そのあとも授業に参加したのですが、よくわからなかったです。学校の帰りにでっかいスーパーに

行ってお土産を買い、家に帰りました。帰ったらホームステイ最終日のため、家族がプレゼントをくれました。

#### 【8日目】

朝は家族とさよならをして、集合場所の中学校に行きました。そこからバスに乗り、最初に行ったホテルに向かいました。そして、ホテルから空港に向かいました。途中でヘルシンキの街を観光したりしました。観光が終わって空港に向かい飛行機に乗りました。そしてまた10時間くらい乗って日本に帰国しました。

フィンランドに行ってとても勉強になり、日本と違う文化を学びました。ありがとうございました。

## ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江商業高校 3年生 中田 伶音

### 【1日目】

奈井江町役場に集合し、新千歳空港に向かいました。その日の北海道は暑いなーと思っていましたが、関西空港が予想以上に湿っぽくて、北海道の自然が懐かしく感じました。そして、関西空港付近のワシントンホテルへ移動しました。正直、ワシントンホテルには期待しておらず、どんな所だろうと心配していましたが、とても立派なホテルでぶったまげました。その後、関西空港付近のバイキングで夕食を済ませました。その後、ショッピングセンターを通り、ホテルに帰りました。ちなみに僕は阪神タイガースのゴメス選手が好きなので帰っている最中にもしかしたらあえるかもしれないと思っていましたがあえませんでした。その日は、フィンランドに行く夢を見ました、

### 【2日目】

前の日あまり寝ていなかったのですが、予想以上に疲れがありませんでした。その日の朝食にはバイキングをいただきました。大阪なので朝からメニューにたこ焼きがあったのが印象的でした。ですが、私は今後のおなかの調子を考えてたこ焼きを食べず、あえて野菜中心のメニューをとりました。そして、ここで食べた白米が日本で食べた最後の白米になりました。

その後、バスに乗り関西空港に向かいました。関西空港では少し時間がありそれで逆に疲れてしまいました。飛行機に乗り込み、長い空の旅が始まりました。飛行機に乗った最初の3時間は余裕でイヤホンも音量最大で首を激しく縦に振りながら音楽を聴いていました。その後、機内食を食べました、味は秘密です。その後、寝る時間になり「目を覚ましたらフィンランドに着いているだろーなー」と思って寝ました。しかし、目を覚ましたとき何時間後到着か確認すると後6時間と表示されていて、することもないので機内を徘徊しました。徘徊が終わり機内食が出ました。このとき間違っってエビ料理を選んでしまい食べるのに苦労しました。その後、フィンランドに到着しました。

景色がとてもきれいだったので写真を撮りたかったのですが、携帯の充電が切れてとれませんでした。その後、空港の外に出てリヒマキ行きのバスに乗り、ホテルへ向かいました。

ホテルで制服に着替え、しばらくたつと歓迎会が始まりました。食事は最初にサラダとチーズが出て、その後、羊の肉を食べ、最後にデザートを食べました。

食事が終わるとホストファミリーの紹介があり、そこで、初めてホストファミリーと会話しました。通訳の人を通してはじめにいわれた言葉は「家にはオオカミほどの大きな犬がいる。しかし、絶対にかまないし吠えないので安心して」と言われました。私はその言葉を信じてハウスヤルビの地に車で



向かいました。1時間ほど車を走らせると、ホストファミリーの自宅に到着しました。そして、家にはいると、歓迎と同時に、オオカミほどの犬にかまれました。ホストファミリーの家は3人家族で子供のエミーは、僕より一つ下の年ですがフィンランドでは小学校に日本より1歳遅く行くので、まだ高校1年生でした。

その日は自宅で夕食を食べ、その後、家の中を案内されました。フィンランドには、一家に一台サウナがあると聞いていましたが、本当にサウナが家にあったときはびっくりしました。家の中は土足と聞いていましたが、ちゃんと靴を脱いでいました。その後シャワーを浴び、その日は眠りにつきました。

### 【3日目】

朝早く目が覚めたのですが、言葉が通じないのでしばらく自分の部屋にこもってしまいました。しかし、しばらくしてから尿意が出てきて、トイレの場所は知っていましたが、どのようなシチュエーションでトイレに行っているのかわからず、尿意が最高潮に達したとたんに部屋を出ました。

朝食はパンとヨーグルトでした。パンはとても堅くて薄く、それにバターを塗って食べました。

その後、父のヴィーサの車にエミーと乗り、どこかに向かいました。そしてついた先は、とても中が薄暗く、扉のたくさんある建物でした。私は不安になりここがどこなのかをGoogleの翻訳機能で訪ねてみると、「ここは刑務所だよ」言われました。ヴィーサの職業は警察官でした。その後、施設内を見学させてもらいました。その途中の部屋で、殺人に使われたであろう刃渡り30センチほどあり血がゴテゴテにこべりついた包丁を見せられ、とても動揺しました。

その後、ヘルシンキオリンピックで実際に使われた競技場に連れていってもらいました。会場はとても広くて、まだ雪が降っていませんでしたが、リフトを使いスキージャンプをしていた人もいました。雪の代わりに人工芝をつけていました。

その後、家に帰り、巨大な犬の散歩をさせられました。ぼくは初めてきた知らない町を知らない犬と歩くのは怖いので、すぐに曲がり角を曲がり、そこで10分ほど身を潜め、最短ルートで帰りました。

#### 【4日目】

エミーのいとこの家に連れて行ってもらいました、エミーのいとこは自衛隊で軍隊に所属していました。そしていとこの部屋に入ると、いとこの部屋にはパソコンが2台あり、いろいろなアニメのフィギュアもありました。そしていとこは、急に片言の日本語で「ワタシ、ハツネミクシッテル」と行ってきました。ワタシは久々の日本語にとまどいながらも「ワタシハ、ハツネミクガスキ、ライク、ライク」と嘘をつきました。すると向こうは、自分のことをアニメ好きと勘違いし、数々のアニメを「コノアニメシッテル??」と聞かれましたが、僕は7割わかりませんでした。しかし、僕はすべての回答に「ライク、ライクシッテルよ」と答えたので、ある写真を見せてもらことになりました。なんとその写真は、エミーのいとこが初音ミクのコスプレをしているものでした。

#### 【5日目】

5日目は、ホストファミリーがやけに「レイク、レイク!」といていたので、借金でもしたのかなと思いました。その後、車に乗せられ、どこへ向かうのだろうかという恐怖感もありながら車に乗っていました。車の中でもホス

トファミリーはずっと「レイク」ばっかしっていました。最終的には、とてつもなく大きい湖に出ました。

後で知ったのですが、レイクとは湖のことでした。そのとき、ホストファミリーが教えてくれたことは、フィンランドには、湖が7000個あってお金のある家は一家に一個ずつ湖を所有していることを知りました。車を走らせていくと、森になり、砂利道になったところで湖にたどりつきました。するとホストファミリーは、ここは、我々の湖だと言い出しました。僕はこの人たち金持ちすぎるだろと思いました。そして、その場所にはサウナもあって、そのサウナに入ることになりました。サウナにはいると父のヴィーサがすぐサウナから出たいといったので、まだ体が暖まってないのにサウナから出て、そのまま湖へ飛び込んだので、とてつもなく寒かったです。そして、湖はとても深く足が底につかなかったので、耳に水が大量に入り込んで耳が痛くなり最後の日まで耳が痛かったです。その後は、みんな疲れてくたくたになり、車の中は全員無言で帰りました。

#### 【6日目】

ハウスヤルビの中高一貫校にいきました。ハウスヤルビの学校にはとてもイケメンの校長先生がいて、おもしろかったです。その日は数学などの授業を見学しました。数学では日本語が少しわかるヘソという友達に教えてもらいました。ヘソはとてもおもしろく、まるでミスタービーンのようなお方であられました。ヘソとはもう一度会いたいです。その後、授業は自由なので、奥田君を中心に授業はデットヒートしました。次の日はこの学校の体育祭らしいので、私は喜びました。

そして、私は自宅に帰宅しました。その日のご飯はスープでした。とてもおいしくて涙が出そうになりました。すると次の瞬間、明日の朝は学校に列車で一人で行ってくれと言われてとまどいを隠しきれませんでした。私は不安な顔をしてみせると「この人について行けば大丈夫」といわれると見せられた画像は、顔があまり写っていない画像で私はもっともっと不安になりました。

そして次の日、その人を捜しましたが、その人物は現れませんでした。しかし、私のことをみて笑ってくる人が一人いました。学校に着くと、エミーに笑っていた彼が写真の人物だと知らされました。

その後、体育祭では、フィンランド野球をしました。フィンランド野球はバッターが打ったら三塁側に走るハチャメチャなルールでした。僕は野球部だったので、とまどいを隠しきれませんでした。

その後、家に帰りエミーが乗馬市に行くので、それに着いていきました。

### 【7日目】

朝7時に起床すると、また学校に向かいました、学校では数学、歴史などの授業を受けました。歴史ではフィンランドの歴史を学んでいました。

その後、セルフサービス式の給食を食べました。その後、家に帰り、家の近くのショッピングモールでおみやげを買いました。

### 【8日目】

最後の学校の日で、授業には出ずに最後のお別れをしました。悲しかったですが、涙は出ませんでした。その後、ハウスヤルビのバスに乗り、ヘルシンキの町を観光しながら帰ってきました。ヘルシンキの町には、寿司屋がたくさんあり、驚きました。通訳の人とも別れを告げ、長いフライトのすえ、日本に帰国しました。

今回、私は奈井江町民ではないのに、このような貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございます。本当に人生で忘れられない出来事となりました。この経験を活かし、これからの学校生活に活かしていきたいと思います。



## ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江中学校 3年生 山田 夕貴

8月21日から8月29日までの9日間、奈井江町の友好都市であるフィンランド・ハウスヤルビ町に視察団員として訪れました。大阪で1泊してからフィンランドへと発ちました。フライト時間は10時間でしたが思っていたよりも短く感じました。

フィンランド空港に着くとテラヴァ町長と通訳さんに迎えられました。空港の一步外に出ると半袖1枚でいるには少し厳しい気温でした。もう少し多く持っていけばよかったと思いました。

リヒマキ市にあるホテルでの歓迎会に参加しました。そこでは前菜、メイン、デザートが出てきましたが、飛行機を降りる前に少し食事をしたのでメインを食べる頃にはお腹がいっぱいでした。

歓迎会が終了しそのホテルに宿泊することなく、そのままホームステイとなりました。私はステイ先のアニヤ（14歳）の車に乗り、家へ向かいました。

### « ホームステイ »

#### 【1日目】

家に着くとお兄さんのアンティが来て荷物を運んでくれました。アンティはアニヤの部屋に荷物を置くと、すぐに出て行ってしまいました。すると、お母さんが「アンティはシャイなの」と教えてくれました。



一段落してお土産を渡しました。かっぱえびせんと柿の種、箸、折り紙、抹茶味のオレオ、モンスタースタンプ、ハイチュウ、紙風船、扇子を持っていきました。どれも喜んでくれていましたが、その中でもモンスタースタンプが一番気に入ってくれました。食べ方を教えると、とても驚いていました。

その後、少し話をしてから寝ました。

## 【2日目】

朝ご飯を食べてからアニヤと2人で散歩に行きました。森の中にコースがあり、ランニングをする人やウォーキングをする人が多くいました。そのコースには筋トレをするマシンがあったり、野生のブルーベリーがあったりと、とても楽しいコースでした。家に帰る途中、アニヤの親友のアマンダの家に行ったり、公園で天海ちゃんとローサと遊んだりしました。

家に戻ると、お昼ご飯のスープができていました。そこで初めてアニヤのお姉さんのアイノに会いました。アイノは日本語で「はじめまして 私は ainno です。おなまえは？」と書いた紙をくれました。

ご飯を食べ終えて、汚れても良い服に着替えて color run に参加するのに1時間ほど移動しました。会場では、参加者が曲に合わせて踊っていたりして、とても盛り上がっていました。5色の粉をポイントごとにかけてながら走りゴールを目指しました。ゴールするとメダルと参加賞、粉の入った袋もらいました。その後すぐに、アニヤにゴールした参加者が集まっている場所に連れて行かれました。そこで、DJの掛け声に合わせて一斉に粉を投げて、さらに粉まみれになりました。



家に帰ってアニヤとサウナに入りました。家の地下にサウナがあったのですが、そのすぐ横にシャワーがあるだけで、バスタブがありませんでした。サウナがあまり得意ではなかったのも、長時間はいつていることはできませんでした。フィンランド式サウナは初体験で石に水をかけて、その水蒸気によって室内の温度を上げるというものでした。あがってからご飯を食べてジュースを飲んで、その日は寝ました。

### 【3日目】

午後からハウスヤルビ町を出て買い物に行きました。ハウスヤルビ町よりも大きな街で、大型ショッピングセンターなどがありました。そこでは食べ物などを買いました。その後、アニヤと2人で湖の近くにある公園で少し遊んでからその街の観光をしました。石造りのとても高い塔に行きました。その塔は頂上までの会談が217段もあり、登るのがとても大変でした。ですが、頂上から見える景色はとても綺麗でした。湖があり、その周りは森になっていました。

この景色は日本ではなかなか見ることのできな  
いものでした。帰る途中に白鳥やカモがいる湖で少し休んでから家にもどりました。



#### 【4日目】

この日から私はアニヤと一緒に学校へ行きました。学校へは歩いて30分ほどでした。1時間目は学校外での体育だったのですが、私は校長先生に学校を案内してもらうために、10分ほどで学校へ戻りました。学校見学では各教室の説明や先生の紹介をしてもらいました。驚いたのが教室ひとつひとつに鍵がついていて、先生が来るまで入れなくなっていたことです。なので、朝、学校に着いたら、教室の入り口の近くにある椅子に座って待っていました。

給食は学年ごとに時間が分けられていました。バイキング形式の給食でした。給食を食べた後はなぜか外に出て、寒い中、友達と話していました。「私は寒いから学校の中で話せばいいのに」と思いました。ですが、上着を着たり、マフラーを巻いたりしてまで話していました。

5・6時間目の授業は音楽でした。日本ではリコーダーや歌ですが、フィンランドではギター、ピアノ、ドラム、パーカッションなどさまざまな楽器を使ってセッションをしていました。日本とは全く違って、とてもおもしろかったです。

家に帰ってからサウナパーティーに行きました。私は入ることができなかったのですが、サウナから出てきて湖に飛び込む人たちを見ているだけで寒くなってきました。なかには飛び込んだままなかなかあがってこないと思ったら、遠くまで泳いでいっていた人もいました。着替えてみんなが出てくる頃、ソーセージを食べました。炭火で焼かれたソーセージは外はパリパリ、中はフワフワで美味しかったです。



#### 【5日目】

昨日と同じく学校に行きました。この日はアニヤのお母さんが学校まで送ってくれました。この日は運動会のようなイベントがあり、午前だけ授業を受けて12時からのスタートでした。まずは、全校生徒でダンスをしていました。

トラックステージの上で生徒2人と体育の先生がお手本として踊っていました。そして、それを撮影してYouTubeに載せると言っていました。その後は、フィンランド野球を先生チーム VS 生徒代表チームでやりました。ベースの位置やルールがよくわからなかったのですが、おもしろかったです。そして、気づけば試合は終わっていました。その後は、雨も降ってきたので、すぐに家に帰りました。

家について少し休んでから、アニヤと電車に乗って大きなショッピングセンターに行きました。そこでは、お土産を買ったり、服を見たりしました。そして、アニヤのお母さんと合流して、家に帰るとアニヤがムーミンのキャラクターのミーのグッズをたくさん買って来てくれました。

そして、その後は公園でローサと天海ちゃんと4人で遊びました。おにごっこなどをして遊んだあと、ローサとアニヤでアルプス一万尺のようなものを始めたので、2人にアルプス一万尺を教えました。ローサが真剣なのにオーバーにやるので、お腹が痛くなるほど笑いました。それから何度も練習してからローサと天海ちゃんと別れて家に帰りました。

## 【6日目】

この日は学校に行く最終日で朝から「今日で最後なのか…」という気持ちでいっぱいでした。学校に着くと、校長先生が私たちをハウスヤルビ町内の小学校に案内してくれました。アニヤたちが通う校舎から近いところにある小学校と車で15分くらいのところにある小学校に行きました。写真のようにとても綺麗な校舎でした。小学校でもICTでの授業が行われていました。始業前に学校に来て校庭で遊んでいる子達がたくさんいました。それと、驚いたのが写真右側の小学校に筋トレをする器具がたくさん置いてあるジムのような部屋があったことです。なんでそんな部屋を小学校に作ったのだろう…と思いました。



学校に戻ってからは普通に授業を受けて、そのまま帰りました。家に帰ってすぐにアニヤと2人で公園に行き、ローサと天海ちゃんと遊びました。ローサの家に行って少し遊んでから、また外に出てクラスメイトのリーヌとアイノと合流しました。この日は最後の日ということもあって、21:30まで遊んでいました。



家に帰ってからは、お母さんがポテトチップスとディップするソースを用意しておいてくれました。これはサワーオニオンソースとトマトソースです。とても美味しくて、22:00だということにたくさん食べてしまいました。その後荷造りをしていると、アニヤとお母さんが来てお土産をくれました。メッセージカードとタオルとムーミンのコップとチョコレートです。この日は最後だったので、夜遅くまで話していました。

### 【7日目】

朝、キャリーバックを持って、いつものように登校しました。そこにタクシーが迎えに来てお別れとなりました。アニヤとローサが泣きながら見送ってくれました。とても寂しい気持ちでいっぱいでした。

馬場さんと遠藤さんの宿泊先のホテルに着くと、タクシーの運転手だったアニヤの親戚の方がチョコレートとあったかい毛糸の靴下をくれました。そして、バスに乗り換えてフィンランドの首都ヘルシンキへと向かいました。

ヘルシンキ観光では、ムーミンショップに行ったり、教会を見に行ったりして、空港へと向かいました。空港に着くと「もう帰るのかぁ…」と少し寂しい気持ちになりました。

初めてのホームステイで、最初は伝えたいことが上手く伝えることができるか不安でしたが、相手もあまり英語が得意ではなかったので、インターネットの翻訳機能を使って会話をしたりしました。なので、あまり不便さを感じることはありませんでした。友達もたくさんできて、今もSNSを通じて連絡をとりあっています

今回このような機会を作っただき、ありがとうございました。とても楽しくて充実したホームステイ生活を送ることが出来ました。今回の経験はこれからの生活に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

## ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江中学校 2年生 鶴 有路

### 【1日目】

役場から出発して約2時間後に新千歳空港に着いたときには、もうお尻が痛くなっていました。機内の中でのことは、寝ていたのでよく覚えていません。それから、大阪ワシントンホテルに泊まり、カメラを家に忘れてきていることに気がつきました。いつのまにか、次の日になっていたと感じるぐらいに、あっという間に1日が過ぎていったような気がしました

### 【2日目】

朝ごはんを食べ、関西空港に向かって出発しました。また、空港内の店でカメラを買いました。出国する検査のようなものも終わり、飛行機に乗ってフィンランドに旅立ちました。

機内の中では、音楽を聴いたり、寝たりしていました。機内食は普通に美味しかったので、よかったです。飛行時間は約9時間と聞いていましたが、実際はそれより長いように感じられました。ヘルシンキに着くと空港自体がなんとなく日本とは違う空気があるように感じられて、外へ出るとここは日本ではないのだなと改めて思いました。

バスに乗ってリヒマキ市のホテルに向かう途中の外の景色が1面針葉樹と空と雲でとてもきれいでした。ホテルでしばらく待っているとホストファミリーの方々が着て食事の時間になりました。そこで僕がホームステイする家のお父さんとお母さんに会いました。それぞれユッカさんとエイヤさんという人でした。料理が運ばれてきました、が飛行機に乗っているような足もとがフワフワした感じが抜けなくてあまり食欲はありませんでした。さらにナイフとフォークで食べる機会がほとんどなかったのでうまく使えずとても疲れる夕食でした。





それから車で15分ほど走ると、何も無い麦畑のようなものが広がる奈井江よりも田舎な場所に来ました。すると、少し高いところに家が見えてきました。家は西洋風で想像より広がったです。家に入ると、聞いていた僕と同年の双子に会って挨拶をしました。それから、2階にある僕の部屋へ案内

されました。クローゼットも自由に使っていいと言われたので、とても助かりました。夕食は眠すぎて覚えていません。そして時差で非常に眠かったのでシャワーを浴びて寝ました。

### 【3日目】

朝起きると、もう11時くらいになろうとしていました。日本時間で言うと夜4時に寝て昼13時に起きるようなものです。朝食を食べ、そのあと買い物に行きました。1軒目は（この日は全部で3軒回りました）電化製品が置いてある所でした。フィンランドの携帯はサムスンかノキアというメーカーのどちらかに分かれるようです。次に日本で言うホームマックのような場所に行きました。そこで、今夜カモ狩りをやると聞いたときは、あまりにもびっくりして何も考えられませんでした。そこはカモ狩りの道具も売っていてナイフ、迷彩柄のネット、銃などがありました。また2階にある段ボールの大きさが、日本では見られないほど大きかったです。3軒目は日本でいうスーパーマーケットで、中は結構広がったです。外国のスーパーマーケットに行ってまず驚いたのが、入ってすぐの所に置いてあった、パンの種類が多さです。薄く硬いパンや味のするパン、酸っぱいパンなど8種類くらいのパンがありました。しばらく進むと、今度は巨大な魚の切れが売ってある場所がありました。僕の腕の長さくらいはあったと思います。それから関係のない話ですが、日本で売っているものもあったので、なんとなく安心したような気分になりました。途中でアイスクリームを買ってもらったのですが、日本で売っているものよりも味が濃く、1つ食べるとお腹がいっぱいになった気がしました。そこで買い物は終わり、家に帰ってきました。

家に帰って荷物の整理をしていると、ユッカさんからカモ狩りに行くといわれたので、急いで準備して外に出ると、ユッカさんのお友達が3人来ていました。そのうちの一人は、黒い大きな犬も連れてきていました。そして、車に5分ほど乗って大きな麦畑が広がる場所に来ました。車から降りてしばらく歩くと、待っていてと言われたので待っていると突然「ズダーン」と音が響き、とても驚きました。そして、音の鳴ったほうへ行くと、黒い犬がカモをくわえていて、何があったのかまったくわかりませんでした。そして、何も分からないまま、この写真を撮りました。そして2つ目、3つ目の場所に行くうちにどうなっているか分かってきました。家に帰ると寒かったのでまずサウナに入り、温まって夕食を食べました。



#### 【4日目】

この日は「夏の別荘」に行きました。車で1時間ほどの距離にあるコテージで、途中、本当に山の中を走ったのでびっくりしました。コテージではまずボートに乗って湖一周をしました。このままサウナに入る予定だったのですが、



雨が降ってきてコテージの中に避難しました。そして、雨がやんだ後、いよいよサウナの中に入りました。最初は思った以上に暑くないなと思っていたのですが、ユッカさんが焼けた石に水をかけると一気に暑くなり、死にそうに感じました。そして、限界だなと思ったとき、サウナ

から出て、そのまま湖に浅いところから入りました。水は思った以上に冷たくて、鳥肌が立ちました。深い所に入っていくとほんとに深く、足が底につかなくてとても不安になりました。そして、体がだいぶ冷えたので、またサウナにというループを2回繰り返しました。3回目は僕も実際に飛び込んでみました。そして家に帰りました。帰る途中の車の中では、ずっと寝ていました。家に帰ると夕食はクレープで驚きました。甘いものが夕食になることが信じられませんでした。

### 【5日目】

この日はイラリ、ラウリと一緒に学校へ行ってきました。学校では1時間目の授業を受けた後、日本で育ったという先生と若い校長先生に校内を案内してもらいました。校舎はきれいでクラスはなく、その教科ごとに教室を移動して授業を受けるという変わったシステムでした。特に印象的だったことが音楽、美術などは途中から選択式になるということです。また、望めばフランス語、スペイン語、ドイツ語なども教えてくれるそうなので教育設備が充実しているなと思いました。また、言語の授業もリスニング、ライティングのほかにスピーキングもあり、うらやましいことが多かったです。その後は、普通の授業に戻り、体育、家庭科、数学などの授業を受けました。

### 【6日目】

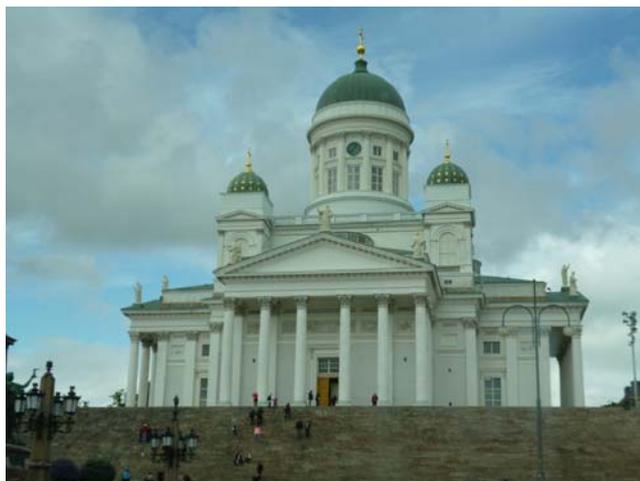
この日も5日目と同じように学校に行き、帰ってきてからエイヤさんに連れられてエイヤさんの実家に行きました。そして、葉っぱの型をとり、それで葉っぱの彫刻のようなものを一緒に作りました。そこには、ほかの人も5～6人来ていたと思います。葉脈を出すために葉っぱに石膏のようなものを付けていくのですが、それを混ぜるのが思った以上に大変でした。そして作り終わった後はそこにいた人でお茶会となりました。そこで食べたパンなどがとても美味しく、何個も食べました。そして帰り際には、お土産ときれいな石のネックレス(?)をもらって、とても嬉しかったです。帰る途中エイヤさんに、あの集まっていた人はサークルのようなもので、一緒にご飯を作ったりしていると教えてもらいました。この日も疲れていたのですぐ寝ました。

### 【7日目】

学校へ行って帰ってきた後、今日はサウナへ行ってきました。サウナは僕と一緒に日本からフィンランドへ行った人がほぼ全員揃っていて、そこで町長さんの話を聞いた後、全員でサウナに入りました。ここのサウナは結構広かったんですが、石に水をかけるとどんどん熱くなっていき、耐えられないとおもったところで湖へ行って飛び込みました。この湖はかなり深く少しびっくりしましたが慣れました。そして、また前のようにこのループを今度は4～5回繰り返していたと思います。そして、だいぶ疲れたのでサウナから上がってソーセージを食べて、帰りました。

### 【8日目】

学校へ行ってイラリと別れの握手をした後、エイヤさんと校内で少し待ちました。すると、人が集まってきたのでお別れのハグをしてエイヤさんと別れました。そして、タクシーに乗ってリヒマキ市のホテルへ遠藤さんたちを迎えに行きヘルシンキ観光をしました。一番印象に残っているのはヘルシンキ大聖堂です。その大きさに圧倒されました。そして飛行機に乗って日本へ旅立ちました。



### 【9日目】

機内は快適でとてもよく眠れました。日本に着いたとき、やっぱり日本っていいなと思いました。海外は大人になってからでも行ってみたいけど海外に長期間いることはできないと、今回のホームステイでよくわかりました。

## ハウスマルビ町を訪問して

奈井江中学校 2年生 大崎 天海

平成26年8月21日から8月29日の間、奈井江町の国際交流事業でフィンランドのハウスマルビ町へ行ってきました。

関西国際空港からヘルシンキまでの長い空の旅は楽しかったです。飛行機には何回か乗ったことはありますが、10時間という長い飛行時間は初めてだったので、機内に内蔵されている映画や音楽を聴くことの時間も長くて楽しめました。

こうして長いスタートを切り、ヘルシンキ空港に着きました。そこからバスでリヒマキ市にあるホテルへ。そして、そこがホストファミリーとの最初に出会った場所です。しかし、まだ時間が早かったためホストファミリーは来てい

ませんでしたので、ホテルの中を少し見渡してみると、そこには、マリリン・モンローとオードリー・ヘプバーンの写真があったり、おしゃれな椅子があったりと、素敵な物がいっぱい目移りしてしまいました。ふと、同じ奈井江中学校の有路君を



見てみると、何やらソワソワ。『どうしたの?』と聞いてみると、有路君は『いやあ～見ての通り緊張しているんだよ。』なんて言っていました。

そして、いよいよホストファミリーと会う予定時刻の18時になりました。皆の緊張は一気に高まり、それまで結構余裕のあったはずの私が、いつの間にか緊張状態です。と、そこへフィンランドの偉い人や市長さんなど沢山の人が集まってきました。隣にいた山田先輩も『お?!』というような感じです。そして、少し間が有ってから、いよいよホストファミリー登場!!それぞれの家のホストファミリーの子供たちはお互い知り合いのようで、ホテルの椅子に腰かけるなりすぐに話始めました。何をしゃべっているのかと思い、私は真剣に

耳を傾げるもまったく分かりません。

食事の時間だよ！と言われ、私たちは2階へ。そして、高校生の二人が呼ばれ、有路君が呼ばれ、私が呼ばれ、山田先輩も呼ばれて、席に着きました。

最初に出された料理は、サーモンの上にホワイトソース、ジャガイモでした。食べ始めは美味しくて、食べるスピードも一定。しかし、なんか飽きたというような感じになりました。すると、突然『Can you speak English?』と聞かれたので、私は必死に『い、Yes! But little』と答えて何とか難を乗り越えました。ですが、それよりも出てくる食べ物の量といい、数といい多すぎです。私は頑張っ

て食べようとすも、ダメでした。

食事も終わり、ホストファミリーの家へ。しかし、その道中の車の中で、しーんとしばらくの沈黙が続きました。そして、そのまま家に到着してしまいました。家は思いのほか大きかったので、感心しました。そして、何よりもすごいのは、庭です。なぜなら、普通にリンゴの木があって、それを食べてしまったからです。『Do you want to eat?』と聞かれ『Yes thanks!』意外に甘くて美味しかったので、『おいしいね!』『あら、ありがとう』というような会話を

して、家の中に入るや否やびっくり！大きな犬がいました。犬種は、ゴールデンレトリバーだそうです。ちなみに名前は、ナツケ。甘えてくるところがとても可愛いです。しかも、猫も2匹いました。

家に入って、自己紹介。私は事前に作っておいた自己紹介文でしました。うまく言えたかな？と不安でしたが、『Nice to meet you Ami!』と言われたので一安心でした。

次に、家族の自己紹介。娘さんの名前は、ローサ(Roosa)です。私は、『Oh!Roosa! That's good name』と言うと、ローサは、『Thank you! I think you name is good too!!』と言われたので嬉しかったです。それから、19時に夕食を食べて、少しお互いのことを再度紹介してから、時差ボケのせいもあり21時に就寝してしまいました。せつかくのいい



機会だったのに、なんか家族に申し訳無いと思いました。

ぱっと眼が覚めたのは、夜中の2時、日本時間の午前8時くらいです。私は内心、うわ～変な時間に起きたなあ…と思いつつトイレに行きました。ローサの部屋の中にトイレがあるので、水を流したときに起きないかな？といろいろ心配していたのですが、大丈夫だったようです。

まだ寝ているローサを起こそうとしましたが、なかなか起きてくれないので、『Roosa?HI!ROOOOSA』と、言うと、やっと起きてくれました。ローサ曰く朝が弱いそうです。

下に降りてみると朝食が並んでいました。丸いブロックチーズに、かたいパン（私は、このパン好きでした。）パプリカのような野菜、ベーコンなどなど。そして、ローサが『Do you want something drink? So orange or coffee or green tea,』と言ったので、『A green tea』と言いました。そして、さっそく食べることに。ローサのまねをしてパンを取り、バターをたっぷり乗せましたが、ここからが問題です。ローサは毎日これですからブロックチーズをピーラーのような物でうまく削り取っていましたが、私はチーズが途中で切れたり、厚さが薄すぎたりして大変でした。でも、フィンランド初の朝食、美味しかったです。

そして、朝食の後、なぜが家の近くにあった森に行くことに。英語がまだ全然分からなくて、『Yes yes』なんて言ってたら、『Oh! ok!ok!!』と英語で言われて。行ってみると、緑があって苔も生えていました。その苔をよく観察してみると、花が咲いていたりして、すごくきれいでした。さすが自然豊かなフィンランドだなーと思っていると、いきなり『This is plocka』これは、プアロツカだよ！と言われましたが頭の中は『ん？プアロツカ？？何それ？』みたいな感じでしたが、『Do you want to eat this?』と聞かれ『Yes!』と答えて食べてみると、なんとまあ渋い味。でも、なんか美味しく感じました。日本では自生している植物を食べることに少し抵抗があると思うのですが、やはりさすが自然が豊富なだけあって、食文化も日本とは違いました。

その後は、フィンランドのショッピングセンターに行くことになりました！朝からハイテンションな私。しかし、ショッピングセンターに行くには車で

かなければなりません。私が1番空気が重いと感じたのは車の中です。お父さんは運転に集中、ローサと私は後ろで時々喋るだけで、なんとなく空気が重たかったのですが、それを察したのかお父さんが道中の外の景色を説明してくれました。そのおかげで『あれは何々だよね?』『おー！すごいきれいだね!』と会話が弾みました。そして、ようやくショッピングセンターへ到着。

ショッピングセンターは結構大きくて、例えるなら発寒のイオンくらいの大きさでした。しかも、食材から服からフードコートから、もう何から何まで有って思わず『わー！すげー!』と日本語で言ってしまいました。すると、それが聞こえていたみたいで、『What does mean?』と聞かれたので、『Oh this mean is great』と答え、納得してもらいました。

私は、買い物は自分のお金でと思っていたのですが、スカートとTシャツと鉛筆を買ってもらいました。

お昼ごはんもそのフードコートで食べました。メニューは覚えていませんが、サインドイッチに似たフランスパンより柔らかく、その間にはチキンとパプリカとドレッシングがはさんであり、美味しかったのですが量がこれまた多くて残してしまいました。

お昼も終わって、今度は食品コーナーへ。『何買うの?』と聞いてみると、『今夜のサラダの野菜だよ。それからあみ、あなたはラーメンが好きだったわね』『うん、もちろん!』『じゃあ乾燥ラーメンを買いましょう』『ありがとう』とかなり会話が弾んで楽しかったです。

買い物が終わり家に帰ると、日本にいる友達からスマートフォンにムービーが送られてきました。そのムービーには奈井江中学校2年の上嶋輝君と、輝君のお父さんと、私のお父さんが映っていました。ですので、こっちからもムービーを送りました。すると、またムービー取ってと言われたので、これで最後ねと言って送りました。

ふと、いつの間にかローサと仲良くなっていたことに気がきました！会話は弾むし、笑っているし、何よりも英語が少しかだけ解ってきたので、嬉しくて長いこと話していました。するとローサが『そうだ！ゲームしない?』と言ったので、『うん！良いね』と意気投合し、人生ゲームに熱中。ルールは日本とあまり変わらなかったなので、楽にゲームを楽しめました。5回中、3対2で、私の勝ち！ローサに『強いね!』と言われたので『私はありがとう!』と言いまし

た。お父さんに、『もうそろそろ寝なさいよー』と言われていたので寝ました。しかし、昨日までぐっすりだったのに、今度は4時に目が覚めてしまい困ってしまいました。

3日目は、朝早くローサの学校の周りを見に行きました。ローサの家から学校までは、2キロあると聞いたときは、とてもびっくりしました。ちなみに私の家から学校までは1キロ無いぐらいです。ローサは、『毎日これだから勉強する前に疲れるわ』と言っていました。学校までは、春から秋の終わりまで自転車で登下校するそうですが、途中、結構急な坂があるので大変そうです。学校は小中高一緒なので、いろいろな年代の子とお話できるそうです。建物もきれいで、大きかったです。見学しているうちに、大粒の雨が降ってきました！！どうしようと思っていると、ローサのお父さんがお迎えに来てくれたので一安心。良かったねと2人で言っていました。家に戻ってから、雨は止みましたが学校は行ったし、なんかすることないね…と言っているところにお父さん登場。『さあ、あみ、ローサ、これからみんなで動物園に行こう！！』と言いました。私は『Yes!!』と言いました。

動物園は、ヘルシンキ動物園という名で有名だそうです。動物園には、日本ではなかなか見られないような動物がいました。その中でも特に気に入ったのは、爬虫類館の蛇です。種類は、おそらくエメラルドツリーボアだと思います。そのほかにも、タランチュラ、ヤドクガエルなどがいました。でも、タランチュラに関しては、ローサはあまり直視できないと言っていました。

この動物園では親子のライオンや、ネズミ科の生き物が居て、それもとにかく可愛いです。日本にはいないいろいろな動物を間近で見学できて、勉強になりました。お昼ご飯は、サラダと、パンを食べました。

動物園の観光も終わり、こんどはヘルシンキ観光に行きました。観光では、最初にF i n n a l rと書かれた観覧車に乗りました。乗車時間は約15分で、意外に大きかったです。そして、そこから眺めるヘルシンキの町並みは、とてもきれいで、写真を撮りました。その観覧車の窓は青く、普通に眺めるよりも綺麗に見えると思います。

だいぶ長い時間ヘルシンキに居て、もう帰るかと言って帰る途中、車はお父さんが運転しているのですが、一般道で普通に90キロというスピードで走る

ので怖いのですが、こんなのまだまだ序の口で、高速道路になるとなんと130キロの猛スピードで走ってしまうので『うあああ』と言うような感じで軽く叫びました。すると、皆に笑われてしまったので（いやいやいや笑っている場合じゃない！）と内心思いながらも、苦笑いしました。

家に着くとすぐにこれからおじいちゃんの家へ行くということで、お父さんとお母さんと犬のナツケは徒歩で、ローサと私はローサの自転車で、おじいちゃんの家へ向かいました。意外に家から離れていて、ローサの自転車の本来荷物に乗せるところに座っていた私はお尻がものすごく痛くなって、ずっと痛い痛いと言っていました。

ここで、ローサのお家のお風呂を紹介したいと思います。ローサの家のお風呂には、バスタブがなく、シャワーを浴びてそのままサウナに入る感じで、バスタブが無かったことは驚きでした。

お風呂に入り、自分の髪を洗うためにシャンプーをしたところ、シャンプーが目に入ってしまい少し焦ったのですが、洗い流さないでためなので、直接シャワーを目に当てて大体流し、ローサを呼んで目にシャンプーが入ったことを伝え目薬をさし、なんとか回復しました。

そんな痛いことがあった翌日の4日目、やっと湖で泳ぐことができました！！私は、個人的に楽しみにしていたので、わくわくしていました。

さっそく水着に着替えて、湖の中へ。思ったよりも水は冷たくなくて『ふ〜ん』というような感じでしたが、やはり入るときには内臓に来る冷たさで息を止めて、『よし！入ったー！！』と思ったら、水深が思った以上に深く『おおお』と少し怖い思いをしました。でも、泳げるようになると楽しかったのですが、結局すぐに寒くて上がりました。『これでやっとあたたかいサウナ



だ！』と思ったのですが、サウナの中はとても暑く、呼吸もできない感じでした。スーっと息を吸うと、喉を通り越して肺にそのまま熱い空気が入ってくるので死にそうでした。

5日目、初の学校見学です！学校の周りは見たことあるのですが、中の方は学校とは思えないくらいの綺麗さでビックリしました。体育館は広いし、白を基調としていて、しかも綺麗だし、とにかく全体的に広いなあと思いました。登下校は、ローサの自転車の後ろに乗せてもらいました。

ここで、ローサの学校で出会った私の友達を紹介したいと思います。女の子はミネルバ、リーノ、アイノ、ネツラ、男の子はミシュカ、サモリです。そのほかにも話した方はいますが特に仲が良かったのは、この6人です。でも、私は苦い思い出があります。それは、授業中にサモリが私にくれたサルミアッキというお菓子なのですが味が最悪で、何と言っていいかわからないです。とにかくまずくてとても食べられない！というような感じなのですが、サモリやリーノは普通に食べてしまいました。日本では、授業中に立ったり、話したり、お菓子を食べたりしてはいけませんが、フィンランドではそれが許されています。そこが一番の驚きでした。

そして、3日間の学校も終わり悲しい時がやってきました。お別れです。最後の学校が終わった後、リーノ、アイノ、ローサ、アニア、山田先輩、私で、写真を撮りました。嬉しかったのですが、お別れが悲しすぎて、家に帰った後、ローサと私で号泣してしまいました。もう本当にさみしくて、どうしようもなかったです。



翌朝、なんかお別れ会でもするのか？と思っていたのですが、あっさり学校でお別れしました。さみしかったです。

今回のフィンランドの経験は、さまざまな面で為になると思います。それは英会話だったり、慣れない場での友達作りです。そして改めて、ホストファミ

リーやフィンランドの学校で知り合った友達や職員の方たちにもお礼を言いたいです。それから向こうで学んできたことを友達に話したいです。

日本に帰って来てから改めて、私は良い仲間を持ったと思っています。本当に良い経験をしました。

## フィンランド地方自治研修

役場 まちづくり課 総務係長 遠藤 友幸

### 研修期間

- ・平成 26 年 8 月 2 1 日（木）～ 8 月 2 9 日（金）

### 研修場所

- ・ 8 月 23 日（月）コーヴォラ市、
- ・ 8 月 24 日（火）ハメーンリンナ市、ハメ連合、
- ・ 8 月 25 日（水）地方自治体協会、財務省

### 研修の同行者

ハウスヤルビ町：パイヴィー・テラヴァ町長

アレクシ・ヘイッキラ総務課長

## 8月25日(月)研修1日目

**【研修先】 コーヴォラ市** 午後1時00分～14時15分

**コーヴォラ市：ラウリ・ラミンマキ市長**

**(ハウスヤルビ町 テラヴァ町長、ヘイッキラ総務課長) 通訳：バンスカ氏**

コーヴォラ市概要

- ・人口 88,000人
- ・面積 2,885.32k㎡
- ・産業 林業
- ・フィンランドの南東(ヘルシンキから北東約130km)に位置し、国内では暖かい地域であり、ヨーロッパとロシアをつなぐ交通上の拠点として発展した。
- ・ロシア西部の都市サンペテスブルグ(人口900万人)まで電車で2時間  
～就労等で影響の大きいまち
- ・まちの特徴～ ヘルシンキの別荘地(夏期)

### **【ラウリ・ラミンマキ市長説明よりコーヴォラ市の合併について説明】**

コーヴォラ市は、昔、森林関係の産業が盛んであったが、変わってきた。過去10年間で2つの大きな製紙工場の廃業により、4,000人の失業者が出たため、経済的にとても大きな影響を受けた。また、高校や大学はないが類似の学校卒業生等の若者は3,000人程いたが、働く場所がないため市外へ流出し、結果として高齢者が残り、新しい問題が出てきた。このようなことが背景にあり、2009年5つのまちと合併することになり、20,000人規模のまち3都市と、3つの町(コーヴォラ、アンヤランコスキ、クーサンコスキ、エリマキ、ヴァルケアラ、ヤーラ)と合併し、新しいコーヴォラ市が誕生。人口88,000人、面積2,885.32k㎡となり、フィンランドで10番目に人口の大きなまちとなった。以前、コーヴォラ市はこの辺りの県(キュメンラークソ県)の中心地でしたが、県の制度は2009年に廃止されました。そして政府の変化もあり、合併の必要性に駆られるようになったが、そのかわりにまた新しい連合が設立された。そ

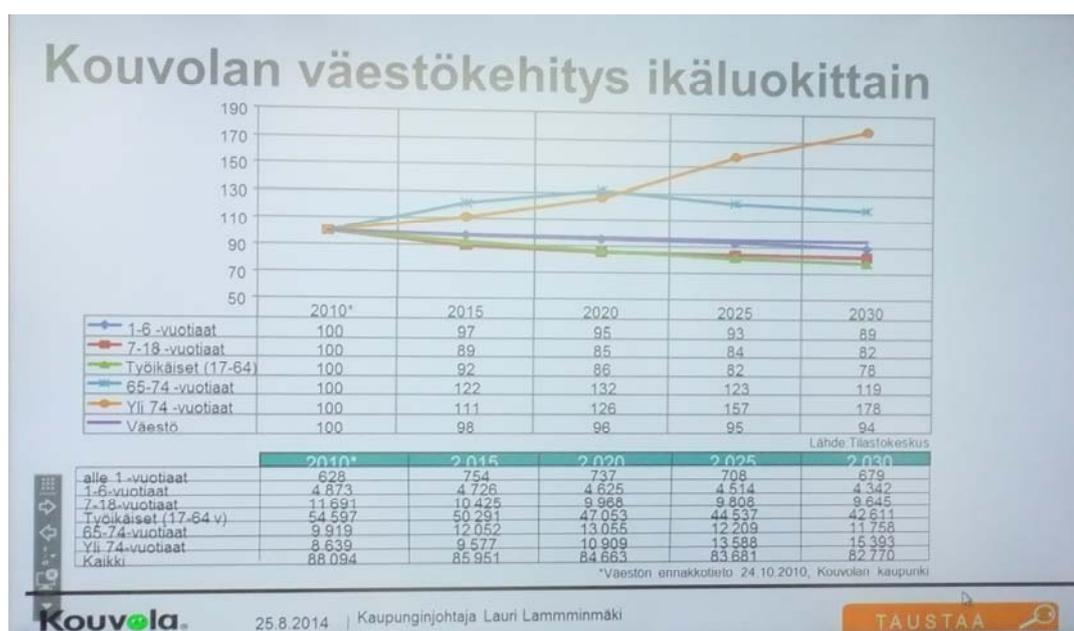
れにより、仕事関係のことで色々失ったが新しいものもでき、その関係でプラスマイナスゼロ位になっている。就業者数はそれほど減少していない。

## スライドによる説明

(就業者数や経済数値、人口構成等のグラフにてコーヴォラ市の状況を説明)

2007年秋の世界金融危機や2009年のリーマンショックによる経済の影響は大きく、合併を決定した時はすべてうまくいっていたが、2009年合併してから本当に悪くなってしまった。しかしそれは世界的なことだから仕方がない。市民は合併してからすべてが悪くなったので、色々文句が出ますが、それは合併のためではなく、世界中の経済の悪化の結果だと思います。

平均的にフィンランドで一人の働いている人に対して 0.75 位の人が高齢者（非課税者）。しかし、このコーヴォラ市周辺地域の数字はもっと高くなっており、本当に経済的にマチにとって難しい。高齢者関係のためのマチの予算は2010年で7600万€です。そして2030年の時には倍（13,600万€）くらいになり、本当に大きな問題です。仕事の減少により税収は減少する。そして国からの補助金も減ってくるのです。そのため経済的状态は難しくなる方向です。



コーヴォラ市の年齢別グループの人口動向

### 【他のマチは合併することに皆積極的だったか】

6 市町村とも合併について前向きに議論していたが、大きなマチ 3 市は賛成し、小さな 3 つの町では反対が多かった。それはサービスの中心が市街地になり、小さな町はサービスが低下するのではとの懸念によるもの。

例えば、老人関係の仕事への従事者は減るが、需要は増えているので、サービスを維持するため、新しい従事者を確保しなければならない。このような大きな問題のためにどのような取り組みを行ったか紹介します。

- 学校や病院の統廃合による減少（図書館の縮小、博物館 13 館を 1 館に）  
～合併により統合したのではなく、人口減が要因（合併しなくても減少する）
- 郊外から中心地に転居、市内バス交通網の整備（中心地まで利用者増加）  
～サービスを受けやすくするため
- 各マチの電力会社（7 社）を 1 社に ～200 万€ の削減（経済効果）
- 賃貸住宅の会社 5 社（5,000 件の物件）、経営不振の会社を売却し新しく構築  
～雇用者：70 人→45 人（経済的土台は良くなった）
- コンピュータ関係を市直営から民間へ移行 ～経済効果あり
- 財政再建による経費を削減し、郊外の地域へ還元  
～今までの 2 倍の予算を使い事業展開  
※健康、病院等の基本サービス+専門的サービスを身近にするため

合併で中心市が強くなるのは当たり前

→小さな町のことを政治家は十分考えなくてはならない

国の援助（補助金 or 交付金）が最近 2,400 万€ 減少し、経済的に厳しい状況にある。フィンランドのみならずヨーロッパ全体が同じ難しい問題に直面しており、将来のことを考えると決して簡単なことではない。

### 【合併して悪かったことは】

6 つのマチのやり方がバラバラものを 1 つにすることの難しさがあり、離れた町の考え方（保守的）と、新しい市の考え方（発展的）がたまに対立する。それは昔からの考え方の違いであり、新しいやり方をするうえで特別なことを

尊重しなければならない。しかし、それぞれマチの特別なことをそれぞれで行っていくのは無理なので統一しなければならない。ヨーロッパは日本としくみが違いマチの責任大きい（市議と国会議員のみ）

大きなマチのやり方に合わせるのではなく、すべてのマチに合わせいいところを使う。それは当たり前のことである。



コーヴォラ市での研修

**8月26日(火)**

**【研修先】ハメーンリンナ市 10:00~11:15**

**コーヴォラ市 ユハ・イソスオ副市長**

**パイヴィ・ウラッコ行政サービス主幹**

**ハウスヤルビ町 ヘイツキラ総務課長 通訳：サカリ氏**

ハメーンリンナ市概要

- ・人口 68,000 人
- ・面積 2,031.55k m<sup>2</sup>
- ・ヘルシンキの北、約 100km に位置
- ・内陸都市の中で一番古い (375 周年)
- ・ハメ城 (13 世紀建築) はマチのシンボル
- ・アウランコ国立都市公園 (リゾート地) ~毎年 60 万人の観光客
- ・フィンランドを代表する大作曲家ジャン・シベリウス生誕の地  
~2015 年生誕 150 年記念を企画

#### **【ユハ・イソスオ副市長よりハメーンリンナ市の概要と合併について説明】**

今いるこの建物は、昔の市役所でとても古く 1888 年建築された。現在は、月 1 回の議会や委員会、お祝い事に利用されている。開基 350 周年記念のためにリフォームし、地下室を新たに造った。デザイナーのアンティヌ・ルメスニミエが設計。

#### **スライドによる説明**

マチの中心地を広くするために、高速道路の上に、マンションやショッピングセンターを建設中 (10 月完成) であり、このような建築物はフィンランドでは珍しい。

合併によるハメーンリンナ市は、森と湖ばかりではあるが、ハメーンリンナ

市から半径 150km の地域で 200 万人住んでおり、フィンランドの人口は 520 万人なので、人口の約半分弱近くが集中している。

2009 年に 5 つのマチと合併（ハウホ、カルヴォラ、ランミ、レンコ、ツーロス）し、人口も 48,000 人から 68,000 人となり、都市として平均的な人口になった。また、面積が 180k m<sup>2</sup> から 2,000k m<sup>2</sup> になり、面積が一番のマチになった。しかし、合併はただ人口を増やすだけのものではない。新たに加わったマチへの支援にお金がかかり、マチのそれぞれのやり方、考え方を一つにすることが大変である。例：職員給料を同じにすることやコンピュータシステムの一体化等）合併後、健康や福祉、教育など平等にチャンスを与えるのがとても難しくなった。

合併当時、フィンランドでは、不景気があったが、合併のせいではない。



ハメーンリンナ市 イソスオ副町長

## 合併後

フィンランドには、50 万件の別荘（サウナ完備）があるが、ハメーンリンナ市の湖のほとりの別荘が合併後 550 件から 7,600 件に増えており、夏期は小さな店も十分商売が成り立っている。

合併前、農家が 38 件だったのが、合併し 780 件（フィンランド内では 2 番目）となり、大きな変化であると捉えている。合併後、農業は重要な産業であ

り、780 件の農家の内、140 件が酪農業（牛・乳製品）、他農家は、小麦等の畑作物を作っている。

金属、機械産業では、スウェーデンの会社と合併した工場があり、1,000 人が新たに雇用し、ホテルやレジャー、観光は、アウランコ国立都市公園がリゾート地として毎年 60 万人の観光客が訪れている。

合併されたマチを含めて全てが新しくなったが、他のマチの合併と比べたら上手くできたと思う。あるマチでは、市民への医療、教育のレベルアップが図られた。

○合併後 5 年経つ。合併するために変化したのではなく新しく変化するために合併しており、5 年前から、今まで行ってきた合併の結果を今後の経営戦略のため大学で研究中である。

○合併前から財政や給与管理等、色々な場面で協力し合っていたので、合併はやりやすかった。

○合併前の良い協力により成功するかどうか決まるが、それでも準備期間に 10 年かかった。

○合併には政治的なリーダーシップが重要だった。

○合併を決めてから、成功するために専門家による検討に 2 年かかった。

○お互いの信頼のために新しいマチの目的を定めた。

- ・経済的に安定すること。
- ・住民参加（デモクラシー）～住民ニーズを伺う（インターネットや会議等）
- ・効果的に組織を作る
- ・市議会で政治的に経済決める ～株式会社で行うか民間で行うか

「全ては市民のために」健康・社会福祉・教育等…業務の細分化。

※子ども、若者、選挙、高齢者、道路…沢山の委員会がある。



ハメーンリンナ市での研修

○午後 12 時 00 分

**【ヘイッキラ総務課長よりハウスヤルビ町の状況について説明】**

・ 昨年の 11 月から合併の研究をしている。

3つのマチ（ハウスヤルビ、リヒマキ、ロツピ）と医療で協力している組織

リヒマキは、一番強く合併を望む ～面積が小さい（面積を広くし、住宅地として売りたい。）

人口はリヒマキが一番多い～中心地となり有利に働くことになるのでは

ハウスヤルビ、ロツピは心配している（対等ではなくなる）

～まだ住民は合併に熱心ではない

★もう一つの心配事。

・ 小さな学校は、閉校になるのか？

・ 道路工事は、郊外まで整備されるのか？ 等

そのために相談しなければならない ～保障を確保する必要がある

※どのような契約を結ぶかが大事。

合併してから、契約を守らないと裁判を起こす事が出来る。（契約通り実行すること。）

※契約を守れるかどうか前もってはっきりしておかないと合併できない

（ヘイッキラ総務課長は、法律のプロ。～なのでそのことを大切にしている）

## 【ハメーンリンナは合併の準備に 10 年かかったが、ハウスヤルビも合併するかどうか研究するのに長い年月をかけるつもりなのか】

★そのとおり、合併には、時間がかかると思う。

※医療、会計、給料、教育等の協力体制は、従前からあるのでそれほど時間はかからないと思うが・・・合併は町の信頼に基づくもの

人間同士も、長い付き合いだったら信用できるのと同じで、合併する前に長い協力を一緒にすることが必要

職員同士は、信頼出来る。政治家は付き合いが少ないのでまだ信頼できない

住民は合併に 50 : 50 だと思う～反対：高齢者、賛成：若者が多いでしょう

外国からフィンランドに来る人はヘルシンキの大都市のみならずハウスヤルビ含め、どのマチにも大切。(少子・高齢化により働き手不足～外国から働きに来る人は非常に大事)

政府の合併の考え方＝強制的な合併だったが(6月迄は、合併の義務があった)、…マチそれぞれで検討し判断するスタイルに。(6月以降、マチ同士が相談しなければならないように変わった。) ※5つの党の国会議員が反対しはじめたことから。

マチの反対要望を聞き入れたもの。(国の法律を変えることが可。来年の選挙のため国民の機嫌取り。)

### 【賛成・反対の原理】

小さなまちは、大きな町と合併したい。

大きなまちは、小さな町と合併したくない。

※コウヴォラ市＝失業者が多く税収が少ない。(生活困窮)

ハウスヤルビ失業者 8% (平均：9%～10%)

産業・工業の変化による解雇。

義務教育後、専門学校卒業し、18歳で工場に就職～終身だったものが、科学技術の進歩によるオートメーション化 ～人員削減によりそうではなくなつた。

**【研修先】 ハメ連合 13:00~14:30**

**ハメ連合 ティモ・レイナ執行役員**

**ハウスヤルビ町 ハイッキラ総務課長 通訳：サカリ氏**

**【ティモ・レイナ執行役員挨拶及び説明】**

ハウスヤルビ町と互いに協力していることを大変嬉しく思います。

5年前にも奈井江町より来所いただいたところです。

フィンランドは304のまちがあり、18の自治体連合がある（昔は県といったが今は違う ※日本に例えると県になる）

連合内に国の事務所も存在しているが、各連合の状況は違う。

※連合の役目

①地域の発展 ②地域開発 ③経済・事務事業の効率化

ハメの連合～11の町、5年前は16の町。

2009年の合併で、5つの町の合併。国全体で100の町が消えた。

上手くいった合併＝生まれたばかりのまちになり、何も問題なく進んでいる。

上手くいかなかった合併＝机上で合併しただけで、何も変わらない。

2009年のハメの合併は、上手くいった。（職員が1人もクビになっていない。）

～国内初めて5つの町の合併。それまでは、2つの町の合併しかなかった。

連合の責任～連合内のまちの手伝い、経済的に弱いまちを助ける。

連合構成が11町より少ないと上手くいかない（最低ライン）

※人口、職場の問題。50km先のフォルソ町では、工場倒産による失業者の増、収入減。～苦しい状況

合併を準備している町は、隣の連合と協力している。

EUに対して、フィンランドの南の連合は互いに協力している（どのような体制をとるか）～ベルギーの首都ブリュッセルに事務所あり。

ハメーンリンナとハメ地方に対しての協力は大切

### 【質問・・・5年前と比較して】

A：合併後、隣の県との協力が増えてきている。

5年前は、人口が増加率高かったが、現在は微増。

医療費の増（ここ数年赤字が増加）が現在の問題点（財源の確保）

### 【質問・・・連合の責任として小さな町を助ける～どんな方法で】

A：経済的に困っている町が国と計画を立て、経済対策を行う。

※国からの経済援助あり

どうしようもない状態の町は、国の決定で近くの町と合併させる。

※幾つかの事例もある。

国から弱い町に多くお金をあげるシステムがある

現在、不景気～多くの場合、町は税金をアップしなければならない。

サービスの減少

※各市町村で収入（税率）額を決める。

### 【ヘルシンキの都構想】

ヘルシンキの都構想（メトロポリス化）

土地代・家賃が高い。アパート不足が問題。宅地があまりない。隣町は土地を譲らない。※ハウスヤル町、ビリヒマキ市にも大きな影響がある。（土地有効利用、交通、マーケット、住民の住処等・・・）

フィンランド面積広い割に人口520万人しかいない～車社会

コーヴォラ市の合併のようにバス利用が25%アップした

まだ、合併市町村が少ないことから、データがなくデータが欲しいところ。

### ●昨日発表されたこと

・5,000件の家を建てるための土地を譲ってくれる

※特殊策＝国の命令（建築、電気、水道設置等国が支援）

・ヘルシンキからリヒマキ、ハメーンリンナまで電車を増便

**【質問・・・小さい連合は何がうまくいっていないのか】**

A：2つの問題

- ・人口減少、仕事の減 失業者の増加

フォルサのマチ（ハメーンリンナの西 50 km）のいくつかの工場閉鎖  
収入の減少により次々に問題が起きている。

- ・高齢者の増加（近隣諸国より高齢化率高い）

問題が多くなっている

（ハメ地方の良いところ）

一つの大会社というより、色々な工場があることから倒産によるリスクが薄  
まるところ～ダイバーシティ（多様性）

※サロというマチ ～ノキアに頼っていたが数千の工場が閉鎖、加えて木造、  
パルプ関係の収入減少と問題多い。



ハメ連合に加盟する  
11の行政区の章  
上段一番左：ハメ連合、  
上段中央：ハウスヤルビ町



ハメ連合での研修

## 8月27日(水)

### **【研修先】 地方自治体協会 10:00~11:30**

- 午前 8時30分 宿泊ホテルより、テラヴァ町長と共に、徒歩でリヒマキ  
駅へ向う。(電車でヘルシンキへ。途中ヒューヴィンカー駅からヘイッキラ総  
務課長乗車) 地方自治体協会で通訳のニーロ氏と合流
- 午前 10時00分 地方自治体協会での研修。

**地方自治体協会 ティモ・ケイタバイネン副部長**

**ハウスヤルピ町 テラヴァ町長 ヘイッキラ総務課長 通訳：ニーロ氏**

### **【ティモ・ケイタバイネン副部長挨拶及び説明】**

日本の和食が世界一と称賛いただく。

フィンランド人は、時間を大切にする、時間を守る習慣がある。(日本ほどで  
はないが・・・)

ヨーロッパは経済的問題がある(フィンランドでは、強い解決策までは出て  
いない。)、日本は消費税アップの問題と、お互いに困った問題がある。

クンダリッド(地方自治体協会)に20年勤務し、この間良い仕事が出来たと  
思う。

1993年にクンダリッド(地方自治体協会)が出来た。

合併を近くで見て学んだ~今日に生かされている

クンダリッド(地方自治体協会)には、フィンランドの全市町村がボランテ  
ィアで加入している。(地方自治体協会と全市町村がお互いに頼っている関係)

※社会の改革のために、奉仕の精神で協力している

上手くいくために、組織を一つ一つ分けて取り組みを行った。

クンダリッド~職員250人+各市町村職員を含めると何倍にもなる)

一番大きな協力している組織

フィニッシュコンサルティンググループ(従業員700名)~海外で勤務

老人ケア、ITテクノロジー~改革のため高品質なサービスを海外に紹介して

いる。 自治体へのサービスも実施。

ヨーロッパの国と連携している。

ブリュッセル（ベルギー）にオフィス～EUで代表するオフィス

日本とも協力（介護関係）

#### 【入札】

クンタハッキナという組織（市町村と仕事）

～地方の会社を通じて「入札」（一番安い、一番いい）をする専門の組織。

フィンランドの市町村～30%入札、国にとって良いこと。

ITテクノロジー、道路の融雪作業等も入札。

EUの法律的に複雑ではあるが、特に問題なく行っている。

国や市町村では、経済的問題もあり、入札により歳出を削減し、その残額でその他のサービスをよくすることが可能

※例＝事務所の文房具等でも入札～残額を貯めることが出来る。

◎市町村協力による入札には価値がある。

#### 【市町村職員募集の組織】

以前は新しい従業員をインターネットやメディアで募集していたが、応募する者が市町村のイメージを持ちづらい。

介護従業員は、フィンランド大勢いる～妊娠や病気の時の短時間職員が必要。

市町村のサイトがあり、空いているポスト等をまとめて発表している。

#### 【職業紹介】

ヘルシンキに在住していた夫婦がラップランドに引っ越した場合、夫は職業があるが、妻はない場合は、職業紹介のシステムがある。（ハローワーク？）

【フィンランドクンダリッド（地方自治体協会）】～世界的に有名。

医療保険についての責任を負っている。

#### 【市町村の責任】

市民は、市町を通じて医療保険サービス、ソーシャルサービスをどこでも受けれる仕組み。

道路清掃、メンテナンスまたは教育・・・市町村責任は大きい。

※小さな市町村は、隣町との協力体制により維持。

大きな市と組んでサービスを補完。(広域連携?)

※色々なサービスを近くに持つてくることも町の重要施策。

#### 【現在の問題点】

政府が市町村に対し、サービスについての支持、関与することは良くない。

市町村独自のサービスを実施する場合、市民の声・ニーズを聴き良いものにするのが重要。

市町村財政の40%は税金で賄われている。※政府に少額行っている。

他の国より、北欧は税金を多く市民より徴収している。

#### 【税負担】

給料たくさん稼ぐ人は、国税も負担している。※低所得者は、町税のみ負担

市町村は独自に税額を決定することが出来る。

最低：16.5% 最高：22.5%

※参考 介護士=3千€ (両替レートで約423千円) /月

※税率の高いマチと安いマチに比べて1,900€ /年、程度多く払っている

～他の税徴収は、大きな税ではない。

固定資産税 (他の国より安い課税10%以下、法人税も10%くらい。)

※法律的に、市町村が税率を決めることが出来る。

国からの補助金～人口、医療保険サービスの量等が判断基準 (交付税?)

市町村によって額が変わる。

市町村の税収が多い場合は、国から補助がない。※市町村のバランスを保つため。お金のある人から取って、お金のない人へ渡す。(包括補助金)

例：ヘルシンキの隣町エスポは、数%しか政府からお金を貰っていない。

税金を国に送ると、その金の用途は決められていない。※1993年からの仕組み。(それ以前は、国の用途が決まっていた。)～検査が大変なためやめた老人ケアに対する市税の他に、国から補助金を貰っている。

フィンランドは税金を通じて各種サービスを市町村が行う

電気、水道、サービス、夜勤にも課税

サービスを買う場合の市民の負担は5%。

介護サービス～病院の部屋、ベッド使用料のみの負担

教育は無料 医療保健の負担も少ない

例：夫が心臓病で何日も入院した場合 ～400€ の負担のみ（高額療養費？）

※400€ 以上は、その町の税金で賄う

税金で賄えない場合、銀行で借金～ごくわずか

今後、税金は上がるだろう。（消費税またはその他の税～議論されている。）

例：ハウスヤルビでは、3年で3%上昇。

国がお金を貯めるために厳しい。

政府は、小さな市町村のお金を厳しく取っている～市民には良くないこと。

国のお金が少ないと、ヘルスケアのクオリティが低下し、新しい会社が成り立たない。～フィンランドもそこまでではないがイギリスでは、大変な状況。

フィンランドも今のままでは状況が厳しくなる

～税金は高くなり国の補助金は減額、商品の値下げ、給料は上がりず・・・

#### 【構造改革】

クングリッド（自治体協会）の計画＝市町村の構造改革が必要。

※政府の大きな決断⇒市町村のリニューアル（数を少なく）

前カタイネン首相が言ったこと。（400の市町を100市町村に）

※政府発表＝これから低くし、合併を・・・

1993年に法律が変わり、強制合併は出来なくなった。

※市町村のリニューアルの計画はダメに～政府の責任者はポストから逃げた。

※今後、フィンランドにおける市町村合併は増えるだろう。

#### 【法律改革】

民間会社も市町村協力が強化された・・・

市町村が同じサービスを行っているか・・・

オーガニゼーション（市町村の組織）と市の会社の大きく2つに分けること

ができる。

※何でも会社を作れるわけではない。基本的に、市民サービスが入っていれば可。市民が必要としない場合は、無理やり作らない。例：エネルギー会社。

### **★国の補助金改革 ～平成 27 年度から変わる。**

人口（例：介護サービスの人口比率）、年齢層、失業者数、外国人数等考慮。

### **★ウエルフェア（福祉事業）改革 ～全体的に大きく変わる。**

以前から検討していた計画 ～政府の意見分かれていたが、ようやく改革。

※市町村の構造も変わる。使うお金の半分は、医療保険に・・・

### **★5つの医療保険組織に決定権を与える。**

以前は市町村が決定権

何のサービスが何処にどれだけ必要か。（4年後、新しい結論を出す。）

決定されたサービスをどのように行うかは、市町村の役割。

自治体協会は市町村の効率的なサービスの提供ができるようサポート  
合併した地域は、新しい市町村サービスを作れないが、市町村間の節約は出来る。

※ハウスヤルビ人口約 9, 000 人独自のサービスを与えている

医療保険サービスを、ロップとリヒマキと共同で実施。45, 000 人

この改革により 70 市町村が加盟、100 万人がサービス受ける

経済的な組織が作られる（ヘルスケア、介護、経済を見る業務）

～様々な経済的な結論を出す組織

市町村の財政計画（1年）～財政に無理な計画を立てていたことが解消される

※国の経済的監視が強くなる

経済不況は、長く続くと思う。（非決定事項の政府の考えが公表されるが、これも多々変化がある。）

※政府が、市町村プロジェクト（財政計画）を平成 27 年度に発表。

市町村の責任や役割を減らすことができるか

今までのシステムを良く変更できるか

サービスの責任の所在は

～市町村の役割を減らしてお金を貯める →疑問

※市町村で働いている人の雇用が悪くなる。(今の首相は分かっている。)

財務省は、色々な計画等の指示 ～複雑化する。

### 【この改革を通じて・・・】

本当に、市町村サービスを減らすことが、市民のためになるのか？

これが本当に福祉事業のためになるのか

高齢化によるサービスの必要性の増加 ～改革によるサービスの減少

→解決ができるのか ～興味深い状況

福祉国家の推進応援する者（国）が一番の敵となる。

自治体協会で福祉国家を応援すべきだが、変化がなければ応援出来ない。

※市町村の福祉事業の確保をしたい。市町村を助きたい。



地方自治体協会での研修

**【研修先】 財務省 13:00~14:30**

**財務省 スヴィ・サヴォライネン高官**

**ハウスヤルピ町 テラヴァ町長 ハイッキラ総務課長 通訳：ニーク氏**

**【スヴィ・サヴォライネン氏説明】**

2005年～2011年合併改革 ～まちの福祉サービスを強めるためのもの。

2014年新しい首相（ストオヴ首相）＝市町村改革を推進。

※目的＝活気ある市町村。高品質のサービス。

合併は、通勤エリア、基本サービス等十分な大きさが必要。（エリア大きさが都会の強さとなる）

**【なぜ改革が必要か】**

人口年齢の上昇 ～雇用の確保、経済の悪化による人口の流出

～田舎から都会へ人口移動の問題等のスピードについて行けない。

エリア拡大による連携の複雑化 ～市民の民主主義不足の懸念

20年後 人口50万人増加の見込み

福祉国家の形成の段階は2010年。

福祉国家を200年代継続 ～維持できるか

市町村と政府 どちらが責任を持つべきか？

～若い世代に将来経済的責任を背負ってもらわなければいけないのか

**【合併】**

市町村構造改革が解決策。

市町村合併をするかしないか の報告義務がある

～スケジュール、フォローアップレポートの確認（検査）

合併＝4つの基準に合わせないと出来ない

○検査基準

①サービス基準＝人口2万人と医療保険の必要性を考慮。

②自給自足80%、雇用率25%以上。

③ベースとなる市町村の大きさ

④経済的基準。(クライシス「危機」市町村)

合併の可否は政府が決定 ～決定に同意しないといけない

(経済的に本当に困った市町村は、政府が強制的に合併を行う。)

※ハウスヤルビ町も検査があった。※これからの展望を検討中。

2013年11月の法律により、300の市町村から250市町村が検査に参加し、うち、36市町村は、小規模により、特別の合併依頼があった。

～政府の検査官が現地に赴き判断。(市町村が受け止められるかどうか判断)

特別な検査 ～12の大きなまちで検査が行われている。

8月には、38の検査があり、165市町村が入っている。

※福祉の法律改革 実施時期によって検査の結果が変わる。

2014年に3つの合併があったが、この内2つは危機的状況により合併。

～補助1,500万€ (約2億2千万円)

※市民のサービスのために政府が動くこともある。

国 (合併の目安人口と経済)

市町村/人口	2万人以下	2万～5万人	5万～8万人	8万人以上
2 市町村	200万€	300万€	350万€	400万€
3～4 市町村	300万€	450万€	500万€	600万€
5～6 市町村	400万€	550万€	650万€	800万€
6～ 市町村	500万€	700万€	800万€	1,000万€

10年前の市町村数 = 446 市町村

2009年に32市町村の合併があった (最大)

2014年の市町村数 = 320 市町村 ～現在合併はゆっくり進んでいる

・合併後のフォローアップ検査 (自治体協会と協力して実施)

～2ヵ月後の検査か、2年後の検査によっても結果違う

- ・ 合併は、合併する市町村の数、大きさ、目的で結果が違ふ。  
 小さな市町村が大きな市町村に入るか、新しいマチをつくるか。  
 サービス構造 = 従前と同じか、新しくするか。  
 合併する理由 ~ エリアの強さが必要。 弱い市町村を助ける合併もある。  
     サービス確保のため、政府が合併を進めることも（滅多にない）  
     計画 ~ どの段階でも新しく見直していく。  
 合併の検査 = サービスに値する組織かが重要（サービスは市民のため）  
     経済的優先を行うため、市民の声を聴く。

- ・ 2015 年新しい法律 ~ 政府からの補助金配分  
     ※ 20 年前の法律のアップデート（今年 4 月完成、現在配分率検討中）
- ・ 医療保険制度改革（来年計画完成）※ 施行はまだ先  
     5 つの医療保険組織のいずれかに市町村は加入。  
     新しい法律案は完成し、政府にて審議中（市町村からは法案に疑問がある）  
     新しい法律が施行されると、市町村の責任が重くなる。

【テラヴァ町長より】

市町村の目線で見ても、今の状況は古いので改革は必要かと思うが・・・  
 新しい法律を全部、短い期間で改革することは難しく、重みを感じる。  
 （本来の動きは 2017 年からになると推測する。）

~ 経済的な責任が政府に動かされ、来年度からの財政計画の作成が難しくなる

【財務省】

- ・ 政府は市町村への補助金の基準を減らした ~ 50 項目 → 10 項目
- ・ どういう責任を持つかは 10 年かけて復習したもの  
     検査を行った結果 ~ 市町村の責任が多すぎ
- ・ 私たちの目的は、責任や持分の分担 ~ 経済的目的は、「お金を貯めること」  
     ※ 2017 年迄には、1,000 万ユーロ（約 14 億円）を貯める目的  
     （今の段階では、可能性は低いと思うが・・・）

- ・今日（8/27）、政府会議が行われ、来年度の財政計画の話がされた  
～首相の発言に私たちは、決定した目的には、到達出来ないとも言った。  
※財務省目線で。

【テラヴァ町長より】

経済的目的を楽観的な見方はしていない。

～作成した財政計画が改革により変更しても当初の計画より少なくなる

2017年の貯金はそこまでいかない。

例：介護・老人介護に1人あたり何人の職員が必要か。※市町村サービスの低下が懸念される。

【財務省】

- ・政治家は、勇気が必要。※来年国会議員選挙なので替わるのは難しいが・・・
- ・新しい法律は2017年に施行予定
- ・市町村合併の検査の終了時期未定。政府は、早く改革をしなければならないと言っているが・・・

【テラヴァ町長】

医療保険の法律改革は、数十年前から思っていたこと。やっと改正されてうれしいが、何故今のタイミングなのか、何故多くの法律と一緒に実施するのかという感を持っている。

～医療保険サービスの進歩が遅くなったのは改正をずっと待たされていたため

【この改革の中で、「子育て」に関することはあるのか？】

【財務省】

財務省内では特に考えていないが・・・

フィンランドの義務教育 ～7歳から16歳迄だが、17歳にするか検討中

※義務学校が終わり、仕事もしないで難しい生活を送っている者がいる。

もっと勉強し、社会での活力が必要。（市町村でアドバイスやカウンセリング）

16歳迄の義務教育を17歳にし、中学校から高等学校、専門学校へ繋ぎ易くなる。

※16歳卒業し、・仕事、・大学に行きたくない場合は、専門学校に行くしくみとなっている。※卒業後、何かしらの組織に入る必要がある。（1年間何もしない子がいる。）

男性18歳から軍隊へ入隊（1年）社会サービスに携わる。

その分教育は遅くなる ～若者ケアのための改善策を検討中。

プリスクールの義務化（5、6歳）～学校により近い教育

入学準備ための学校 ※幼稚園ではない

- ・「世界で一番母親に優しい国」～「アイティウスパッカウス」

妊婦にマタニティグッズの贈るサービスの継続

検査を実施してきてよく聞く話。母親、父親にもサービスを考えている。

※政治家生命にかかわるぐらいの事項と捉える。

- ・フィンランドの生徒は、あまり学校が好きではない。

不登校、専門学校も途中で辞めてしまう。

原因～全ての学校で学んだ事柄の実行・応用があまりない。

本を良く読む子は成功するが、何か創りたいと思う子への経験を与えてほしい ～その結果、成功し、学校が楽しくなるのではないか。



財務省での研修

## 【おわりに】

今フィンランドは、深刻な不況による経済危機を乗り切るため、構造改革による様々な国の制度（しくみ）が大きく変わろうとしている状況にあり、まさにうねりのさなかにあるかと思えます。

財務省での研修で、補助金制度や福祉事業等の構造改革の概要の説明を受け、なかでも医療制度改革では、国を5つの地域に分けた組織にすべての市町村が加入し、市町村にあった権限を組織に移しサービスの効率化を図るということでした。

そこで研修に同行していただいたテラヴァ町長は、「医療制度改革は待ちにまった改革なのに、他の改革といっぺんにやりすぎる。短期間でできるわけがない」と直接政府にモノを申している姿は、国と市町村のみで県という組織がないフィンランドの仕組みならではと思いながらも、とても印象に残る発言でした。

この研修で感じたことは、まずは自分たちでサービスの提供や運営が難しい場合、いろいろな場面で連携、協力することの大切さでした。これはすでに奈井江町でも医療介護保険等の分野で近隣市町と取り組んでいることであります。

しかし、フィンランドのような経済危機が日本に訪れないとは限らない中で、もし今後合併の論議がなされた場合、連携や協力によって生まれた信頼関係により、その危機を乗り越えることに成功するかどうか決まるということ、そして、合併を選択する・しないに関わらず、長い年月をかけて（コーヴォラ市は10年かけたことに驚きました）じっくり検討しなければいけないことを認識いたしました。

また、コーヴォラ市長の話にありました「中心地が弱い地域を切り捨てるのではなく、助けるのは当たり前であり、以前の2倍の予算をかけている」との言葉は、対等に地域を扱っている姿勢が表れているものだと思います。

合併を選択した研修先のマチに共通することは、当たり前のことですが、本当に町のためになるのか、住民ためになっているのかということであり、広域

的な視点に立ち、隅々まで行政サービスが行き渡るよう住民の声を聞き、そのためにどのような手法や契約を結び、しっかりと準備することができる環境づくりや、日頃からのいろいろな連携体制による信頼できるパートナーづくりというものが重要であることを学びました。

これらのハウスヤルビ町をはじめとしたフィンランドでのマチの取り組みが、奈井江町にとって一つの指針として、大変参考になるものであり、今後のまちづくりに活かしていきたいと思います。

最後に今回の研修はテラヴァ町長をはじめとしたハウスヤルビ町がご配慮していただいたおかげで無事に終えることができました

最終日のハウスヤルビ町の理事会メンバーとの夕食会での話ですが、ハウスヤルビ町も今、色々と大変な状況ではあるかと思いますが、今後もずっと奈井江町と交流したいとおっしゃっていただき大変うれしく思いましたし、私達も当然同じ気持ちでいますのでこれからも今まで築いてきた信頼関係をより深め、友好の輪を広げていけるよう努めたいと思います。



ハウスヤルビ町理事会メンバーとの夕食会